

第2回セミナー かたつてまちづくり みよう!

@熊本日日新聞社・本館2階ホール

「くまにち すばいす」で隔週掲載中の「まちづくり探検隊」。その紙面を通じて地域活動やまちづくりに興味・関心を持った方に、実際の行動に移してもらうための後押しとなるよう開催しているセミナーが、「かたつてみよう! まちづくり」です。第2回のセミナーで行われた事例発表やワークショップの様子を紹介します。



事例発表、ハザードマップ作りと盛りだくさんの内容に参加者の満足度も大!



市が作成したハザードマップを基に危険なエリアをチェック

私たちが参加者の意識の高さにびっくり!

ハザードマップの重要性が参加者に浸透!

事例発表で熊本地震の際の避難の現実を聞き、薄れつつあった被災当時の記憶を呼び戻すことができました。また、改めて災害への備えの大切さを痛感しました。セミナーでは、参加者から「30~40代の働き盛りや子育て世代の防災意識が低いのでは?」との意見もあり、同世代である私も含め、意識改革の必要性を感じました。災害への具体的な備えや準備を行う上で、ハザードマップ作りがその第一歩になるとの気づきを得た参加者が多かったようです。

司会 荒木直美さん
(タレント、まちづくりコーディネーター)



9 月9日、熊本日日新聞社・本館2階ホールで開催したセミナー「かたつてみよう! まちづくり」。

今回のセミナーは、「考えよう! 身近な防災」のテーマに約20人の参加がありました。熊本地震という大災害を経験し、誰もが災害への備えの大切さを痛感しました。しかし、いざ「何かしなければ」と思っても、どのような準備や心構えをすればいいのか「分からない」という人も少なくありません。

そこでセミナーでは、今回から3回シリーズで、身近な防災を考える上で欠かせない要素の一つ「ハザードマップ」を作り、それをどう生かすかを学ぶことにしました。

2部制で地域防災の事例とハザードマップ作りを学ぶ

今回は、2部に分けて展開。第1部は、託麻原小PTA会長の漆野和也さんと、熊本市消防団(慶徳校区)・第15分団の山内要さんによる事例発表を行いました。地域で取り組んでいる防災活動の実例や、熊本地震の教訓を生かした防災のアドバイスなど興味深い話題に、参加者はメモを取りながら聞き入っていました。

さらに、セミナーの講師・ファシリテーターを務める水野直樹さんを交えたフリーディスカッションでも熱い意見が交わされ、事例発表と併せて、改めて「防災」

への意識を高めるきっかけやヒントを得る機会になったようでした。

第2部のワークショップでは、テーマの柱であるハザードマップの重要性と、その作り方について水野さんが説明。「ハザードマップを見るのも、作るのも初めて」という参加者が多く、次回予定しているフィールドワーク(実際に地域を巡りハザードマップに落とし込む危険箇所を調べる)に向けて、いい予行演習になったようです。

災害の経験者だからこそできる防災対策を!

私たちは2年半前に熊本地震を経験しました。だからこそ、万一の災害に備えて「想像できること」「考えること」「提案すること」があります。今回のセミナーでは、さまざまな立場からのお話(事例発表)と参加者の皆さんの経験を重ね合わせて考えることで、未来への行動が見えてきたのではないのでしょうか。考え付かなかった視点を与えられ、新たな気づきに目を向けることが、私たち「経験者」にできる防災対策だと思います。

講師・ファシリテーター 水野直樹さん
(スタディライフ熊本理事)

